２０２５年３月８日

社会福祉法人あおば福祉会
おひさま保育園
2025 年度（第 28 年度）事業計画

はじめに

２０２５年度に豊中市は府内の中核市として初めて児童相談所を設置します。子どもの権利を守り、子育てに関する問題や不安を抱える家庭に対して、迅速かつ丁寧に、切れ目なく包括的に支援ができることを目的としています。私たちもできるだけ早く組織概要を把握し、お互いに連携できる関係を構築していきたいと思っています。また、この間、豊中市では保護者の入園等に係わる書類や行政手続き書類のデジタル化、一時預かり保育予約等のシステム化が進み、データベースのやり取りに移行されてきています。時代の流れに対応できるよう、データの管理方法の確認や環境整備を行い、職員間で共有していきます。

近年、法人の事業拡大に伴う異動等で、新たな職員を迎えることが多くなっています。職員一人ひとりがやりがいを持って長く働き続けられるよう、働きやすい労働環境や状況づくりの追求はもとより、日々の保育が喜びや手ごたえにつながるような学びを大切にしていきます。子どもの重大事故防止や物価高騰、自然災害等、子どもたちの命や暮らしに関する出来事について、運営の主体者として職員の意識を高めていけるように取り組みをすすめていきます。

◆大切にしたい保育内容・特徴

（１）身体を通した豊かな生活体験やあそびを通して、一人ひとりが身体の使い手になる。また、身体を動かすことを喜びにし、園文化として広げていく。
（２）異年齢交流、姉妹園交流、地域（世代間）交流を通して、人とのつながりをつくり出し、人と関わり合う力を育む。
（３）子どもの人権と発達の観点から、障がい児や性教育についての理解を深め、子どもたちが「自分を大切に」することを軸に、「他者をも大切に」する気持ちを育む。

１　こどもの入園予定

おひさま保育園　定員：90名　　（理事会当日現在）

クラス（対数）	定員	４月予定児童数	支援児	新入園児（予定）	継続児童数
0歳児（３：１）	９	８	０	８	０
1歳児（５：１）	１２	１２	０	５	７
2歳児（６：１）	１５	１５	０	５	１０
3歳児（１５：１）	１８	２０	０	５（連携）	１５
4歳児（２５：１）	１８	１８	２	０	１８
5歳児（２５：１）	１８	２０	０	０	２０
合計	９０	９３	０	２３	７０

※一時保育事業実施

２　職員体制と職員の状況　（新規採用・異動職員）

新規採用者	保育士１名　２０２５年４月１日付（新卒者）
正規職員・・・・・・　１５名	園長１名　副主任２名　保育士１０名　栄養士２名
パート職員・・・・・　１３名	
常勤パート職員・・・　８名	保育士５名・栄養士１名・看護師１名・子育て支援員１名
短時間パート職員・・　５名	保育士２名・子育て支援員１名・調理補助２名
安全管理・・・・・・・　１名	シルバー人材センター１名
嘱託医・・・・・・・・　４名	なんばこどもクリニック　（難波　直樹小児科医師）
	伊藤歯科医院　（河村　忠成歯科医師）
	おかざき眼科　（岡崎　俊夫眼科医師）
	野口耳鼻咽喉科　（野口　春彦耳鼻咽喉科医師）

３　子どもの安全と健康・危機管理

（１）職員一人ひとりの危機管理意識を高めていく

①策定した「BCP（事業継続）計画」「安全計画」に基づき、実地訓練を行い、実態に見合った内容になるように修正する。また、合わせて「給食 BCP 計画」も作成し、備蓄備品の確認を行っていく。

②リスクマネジメント委員が中心になりながら毎月の避難訓練のふり返りを行い、改善点と次回の課題を明確にし、訓練が積み上がっていくようにする。

③日々の検証はもちろんのこと、子どもの重大事故をなくすために、社会的な事案（窒息や抜け出し）についての情報共有と対策検討を日常化し､危機意識を高めていく｡必要であればマニュアルも整備していく。

（２）子どもの人権を守る保育を追求する

①子どもの権利擁護や不適切な関わり、虐待防止に関する研修会に積極的に参加する。

②新年度会議や自己評価チェックを通して、自己の保育をふり返る機会を持ち、人権意識を高めていく。

③おひさまっこ保育園の看護師（体調不良児型）との連携に向け、毎月両園の看護師会議（管理職も参加）を行い、子どもたちの健康管理を充実させていく。また、保育者と共に「身体の日」の中身について立案し、子どもたちに向けた性教育や健康教育を行う。

④『にじの会』（おひさまっこ保育園修了式）に、２歳児クラスも参加し、連携園への移行に対して、子どもたちの見通しや安心感につなげていく。

（３）より良い保育環境・労働環境を実現する

①暑さ対策等を考慮して、１階（乳児）トイレにエアコンを、２階（２歳児）トイレに扇風機を設置する。

②２階テラスの改修工事、及び環境整備を行い、緑化と安全管理に努める。

③保育者（常勤パート・パート）を確保し、ノンコンタクトタイムの取り組みや休暇代替等、働きやすい職場づくりに向けた人員体制を構築できるよう努める。

４　保護者の願いに応え、子どもと共に育ちあう関係を大切に！

（１）保護者の要求や願いに応え、共に育ちあう喜びが共有できる

①新入園説明会で使用するパワーポイントの中身を再考し、新入園の保護者の安心や見通しにつながるように、保育園の概要や保育内容がわかりやすく、伝わりやすいように工夫をする。

②園内サークルや行事、文化的な取り組みを通して、保護者が関わる場面を意図的につくり出し、保護者同士の関係が広がるように働きかける。その中で、「お父さん会」を発足する。

③懇談会の中身づくりにこだわり、交流内容やパワーポイントの作成を充実させ、子どもの発達理解や保護者同士の関係づくりに努める。行事については、より丁寧に説明し、見通しにつなげていく。

④保護者のニーズを把握し、保育学校（子育て講演会）や教育カフェ（学習会）等を企画し、共に学ぶ機会を設ける。

⑤社会の動向や保護者のニーズに応えるため、一時保育予約システムの導入について検討していく。

５　地域に根ざし地域に必要とされる保育園をめざして（地域貢献事業）

（１）地域に開かれた保育園をめざし、地域貢献事業に取り組む

①市のアプリや園のホームページの内容を充実させ、園の様子や地域活動の情報発信を行い、地域の方にとって、保育園が身近になるように努めていく。

②市の地域子育て事業に『マイ子育て広場』に参画し、毎月の園庭開放と合わせて、親子活動（毎月）及び、子育て講演会（年１回）を企画する。その機会を通して、地域で子育てする親のニーズ把握や育児相談を行う。スマイルサポーター（３名在籍）が責任を持ち、役割を果たす。

（２）地域の教育機関・施設と連携する

①幼保こ小連絡協議会を基盤にした近隣の施設や教員との交流を図り、小学校接続に向けて大切にしたい内容について共有する｡また､小学校接続に向けた保育カリキュラム作成に着手する(小学校接続加算条件)。

②豊中市こども事業課や小児科医と連携しながら、発達に弱さを抱える子ども達や保護者を支援する。

③今年度から設置される豊中市の児童相談所（府内の中核市で初）の組織概要を理解・把握し、連携できる体制を構築する。モニタリング対象児については、定期的な観察記録を取り、継続的な見守りを行う。

（3）地域にとって大切な社会資源としての保育園を目指す

①「熊野田校区福祉連絡会」「夕日丘自治会（さつき会）」等の集会に参加し、地域ニーズを把握する。配食サービスについては戸数を拡大し、地域とのつながりがさらに広がるよう努めていく。

②地域高齢者のサークル活動や子どもの居場所づくり「おひさまの家」事業に、おひさまっこ保育園の多目的室を利用し、在園の子どもたちと世代間交流を図れるようにする。

③実習生やボランティアを積極的に受け入れ、養成校との関係を築きながら、保育に携わる人の育成と人材確保の土台づくりを積極的に行う。

6　職員の資質向上をめざして

（1）「実践」と「学習」が結びついた研修を行う

①乳幼児会議の中に学習を位置づけ、小さい単位で議論や学びを深めていく。その際、場面記録やビデオ検討を活用する。

②専門的な分野（音楽・美術・体育・リズム）の向上のため、実体験や実地研修を大切にし、保育者自身が喜びや手ごたえを感じながら、保育技術力・保育指導力を高めていけるようにする。

③研修や会議に研究者も参加していただき、理論と実践を結び付けていけるようにする。

（2）他園との交流を通して学び合う

①北支部６園の交換研修を実施し、お互いに保育の質を高め合う。その際は、対象者や目的を明確にする。

②新たな管理職と共に豊中支部として連携を強化し、地域会議、職員研修、保育実践等の交流を行い、双方の保育運営につなげていく。

③豊中地域で「働きやすい職場づくりプロジェクトチーム」を結成し、職員も主体となって労働環境のさらなる改善に向けた議論を行い、社会情勢や職員集団づくりへの視野を広げる機会として位置付ける。

（3）講師・研究者を招いて研修会を実施する

①「保育実践から子どもの内面と発達理解を」　講師：長瀬美子氏（大阪大谷大学）・年３回

②「身体を動かしてあそぼう　～乳幼児期の体育あそび～」　講師：塩田桃子氏（成蹊大学）・年２回

③「発達障がいの理解」研修／観察／面談　講師：松岡太郎氏（前豊中市保健所長）・年６回

④「身ぶり表現の実践」「乳児保育」講師：青井郁美氏（神戸大学・人間発達環境学研究科）

（4）保育実践提案

○提案　第５６回全国保育団体合同研究集会（群馬）「子どもの発達と給食」

7　中長期計画に関って

（1）人について

①乳児責任者・幼児責任者を置き、責任や役割を意識できる体制を構築する。

②若手職員（経験年数１～３年）の面談を定期的（年４回）に行い、悩みや課題を共有する。

③異動等に備え、キャリアアップ研修を受講する職員の対象を拡大し、４分野の取得を目指す。

④おひさま保育園・おひさまっこ保育園の連携に向けて、週初めの管理職ミニ会議を引き続き位置づけ、情報や課題の交流、及びお互いの業務確認を行う。また、管理職間で行事の責任を分担し、全体を見る目を養っていく。

（2）修繕について

①乳児・２歳児クラストイレ空調、及び扇風機設置工事　　３０万円

②２階テラス（フローリング・柵）改修工事　　７０万円

③全室のカーテン更新とカーテンレールの補修工事　　１０万円

④回転鍋・ガスレンジ等の更新（赤い羽根共同募金）※３月末に決定　　１２０万円

（3）その他

①人材確保に向け、北支部 HP の採用情報の強化と公開内容の充実を図る。

②契約会社の見直しや検討を行い、コスト削減に努める。

・ウェブさくら　→　VISH 株式会社（バスキャッチ）

・関西電力　　→　日本テクノ